

「川内小学校の日暮長者伝説の朗読劇発表」

1 学校名

薩摩川内市立川内小学校

2 学年・人数

3年生（計40人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年9月～10月（本校教室・体育館）

（2）発表の日時・場所

令和元年10月27日（すこやかふれあいプラザ）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

日暮長者伝説（ひぐらしちょうじゃでんせつ）

（2）由来

日暮長者伝説は，室町時代末期に金剛弥五郎により創作された謡曲「鳥追舟」により全国に知られた伝説である。謡曲と地元に伝わる話とは，やや差違はあるが，長者が在京中に，長者の子（姉・弟）を長者の後妻が，10年間毎日小舟に乗せ水田の鳥を追わせたので，姉弟はその苦辛に耐えかね，川に身を投げたという悲劇である。里人は二人の屍を手厚く葬りそこにタブの木を植えた。その場所が現在の鳥追いの杜と言われる。

（3）構成等

日暮長者，お北（姉），花若（弟），お熊（継母），柳御前（実母），左近允（日暮長者の家来）の6人の台詞を，全員で分担しながらストーリーを展開していく。また，日暮長者伝説の場面ごとに，その様子を全員で歌う。構成としては，歌→台詞（グループ）→歌の繰り返しで，最後は全員で全ての場面を通して歌う。

5 保存会や地域との連携の具体

校区の伝説を多くの市民に知ってもらえるように，川内地区コミュニティーセンターの生涯学習フェア（毎年）や，薩摩川内市生涯学習フェスティバル（平成26年度）に出演している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ ふるさと・コミュニケーション科の一貫として，毎年，第3学年が取り組んでいる。
- ・ これまでは一部の児童のみで台詞を言ったり，演じたりしていたが，昨年度から全員が分担して台詞を言えるような構成にした。
- ・ 台詞を言っている役が分かるように，胸に役柄を示したプレートをつけて本番に臨んだ。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）

「発表する子供たち」



「会場全体の様子」



「全員で歌を歌う様子」



「校長から紹介される子供たち」



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

○ 児童

- ・ 最初はしっかりとできるか心配だったが、クラスみんなで、最後まで集中して発表できたのでよかった。
- ・ 来年の3年生もきっと上手に発表することができると思う。おうえんしたい。

○ 保護者

- ・ 地域の方々の前で発表する機会があることは、とても素晴らしいことだと思う。クラスのよい思い出がまた一つ増えたと思う。
- ・ 子供たちの発表を見て「日暮長者伝説」について初めて知った。地域のことを親子で知るよい機会となった。

○ 教職員

- ・ 本番に向けて、何度も台詞を合わせたり、歌を覚えたりするなど、慌ただしく練習してきた。頑張りが形となり、子供たちには感謝している。
- ・ 昔の出来事が今でも残っており、それを子供たちが表現できることはすごいことだと思う。少しでも地域のことを知る機会になればよい。